

## 東京都立大江戸高等学校 平成29年度 理科 年間授業計画

1. 科目名 化学基礎 2. 講座名(単位数) 化学基礎(2単位)

3. 教科担当者

4. 使用教科書・教材 『高校化学基礎』(実教出版)

5. 授業計画

学期	月	単元及び指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定 時数
1 学期	4	第1章「物質の構成」	○周期表(1~20番)を暗記させる ○混合物、純物質、単体、元素の概念を理解させる。 ○混合物と純物質の性質を理解させる。 ○原子の構造について理解させる。 ○各生徒の学習の理解度を確かめる。 ○電子殻や電子の配列について暗記させる。	○評価は以下の点で行います。 ①出席をすること。 ②授業中は、必ずノートをとる。 ③プリントなどの提出物を必ず出すこと。 ④実験の時の取り組みや実験や実験結果の意味を理解する。	4
	5	○1節 物質の探究			8
		○2節 物質の構成粒子			8
	6	第2章「物質と化学結合」			6
	7			④実験の時の取り組みや実験や実験結果の意味を理解する。 ⑤定期考査での理解度を計る。 20%「学習の意欲・関心・態度」 15%「実験の操作・結果・考察力」 15%「ノート・提出物」 50%「知識・理解」	
2 学期	9	○1節 物質と化学結合	○イオン結合・共有結合・金属結合の違いを通して化学結合への理解を深める ○原子量、分子量、式量、モルの概念を確実にさせる。 ○気体の体積・質量・分子量の関係を理解させる。モル濃度の概念は確実に理解させる。 ○化学反応やイオン反応は、物質中の原子の組み替えにより起こることを理解させる。 ○化学反応を化学反応式で表すことを理解させる。また、係数の合わせ方を理解させる。	○評価は以下の点で行います。 ①出席をすること。 ②授業中は、必ずノートをとる。 ③プリントなどの提出物を必ず出すこと。 ④実験の時の取り組みや実験や実験結果の意味を理解する。	8
	10	○2節 物質の利用			6
	11	第3章「物質の利用」			8
	12	○1節 物質と化学反応式			6
3 学期	1	○2節 酸と塩基	○酸塩基の強弱と価数を覚えさせる。 ○pHの求め方を学習させる。 ○中和公式の計算方法を学ぶ。 ○酸化数を用いて酸化剤還元剤の求め方を学ぶ。 ○金属のイオン化列を覚えさせる。 ○電池の構造を学ぶ。	○指導の重点については、考査や提出物の内容だけでなく、理解が困難な場合であっても理解しようとする姿勢を評価します。	6
	2				6
	3	○3節 酸化還元反応			4
予定時数計					70